

サステナブルな社会の実現に欠かせない サーキュラーエコノミーへの転換

サーキュラーエコノミーの重要性

サーキュラーエコノミー(循環経済、以下CE)とは、大量生産・大量消費・大量廃棄を一方通行で行うリニアエコノミー(線形経済)に対し、「資源を効率的・循環的に利用しつつ、ストックも有効活用しながら、サービス化等を通じ付加価値の最大化を図る社会経済システム」とされています(図表1)。

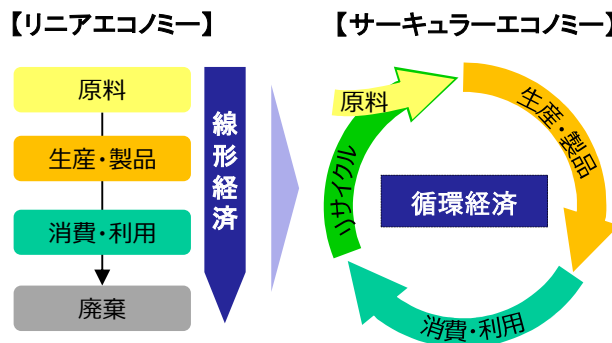
CEへの転換は、資源の枯渇リスクやカーボンニュートラル実現に不可欠であるのみならず、経済安全保障や経済成長(例えば、資源輸入の増大と価格高騰による所得の流出)の観点からも、その重要性が指摘されています。

製品のライフサイクルが変化する可能性も

内閣官房「分野別投資戦略」の中で、CEは、①資源の再利用・再資源化(リサイクルしやすい製品づくり、金属リサイクル等)、②新たな資源の生成(バイオものづくり等)、③資源の共有(シェアリング等)、④資源の長期利用(リノベーション等)に類型化されています。政府はCEに向けた取組を積極的に支援する方針の下、今後10年間で2兆円以上の官民投資を見込んでおり、新たなビジネス・サービスの創出・成長が期待されます(図表2)。

ただし、製品等のライフサイクルの変化を通じて既存サプライチェーンが影響を受ける可能性も想定されます。自社のサステナビリティの観点からも、今後のCEの展開について、注視していく必要があります。

図表1 リニアエコノミーとサーキュラーエコノミー



(資料)環境省資料等より当部作成

図表2 サーキュラーエコノミーの4類型と政府の支援策

①資源の再利用・再資源化 ■設計段階からリユース・リサイクルを前提とした循環デザイン製品の普及 ■回収・選別・リサイクル技術の高度化等	■ 再生材・バイオ材の導入・製造設備の導入支援 ■ 省マテリアル製品の製造設備の導入支援 ■ 金属・リチウムイオン電池・太陽光パネル・プラスチックのリサイクル設備の導入支援
②新たな資源の生成 ■バイオものづくり技術など、技術イノベーションによる資源ポテンシャルの開拓	■ バイオマス廃棄物等を原料とした持続可能な航空燃料(SAF)の製造に向けた取組等の支援
③資源の共有 ■シェアリング等による付加価値の最大化 ■データ循環による資源循環の可視化・最適化	■ リース・シェアリング等のサービス化のための設備等の導入支援
④資源の長期利用 ■レストア(復元)・リメイク・リノベーション	■ 二次流通商品の安全性担保にかかる環境整備(製品安全制度の見直し)

今後10年間で官民合わせて**2兆円**の投資

(資料)経産省「GX実現に向けた基本方針」、内閣官房「分野別投資戦略」より当部作成

- ◆ 本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ◆ 本資料は、信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容等は作成時点のものであり、今後予告なく修正、変更されることがあります。資料のご利用に關しては、お客さまご自身の責任において判断なされますよう、お願い申し上げます。
- ◆ 本資料に関連して生じた一切の損害については、責任を負いません。その他、専門的知識に係る問題については、必ず弁護士、税理士、公認会計士等の専門家にご相談のうえ、ご確認ください。
- ◆ 本資料の一部または全部を、当社の事前の了承なく複製または転送等を行うことを禁じます。
- ◆ 本件に関するご照会は、ひろぎんHD経済産業調査部 担当：河野(洋) (TEL082-247-4958) までお願いします。